

【避難所の感染症対策についての心配】

『3密（密閉・密集・密接）』を控える状況下、松本では少し大きめの地震がありました。もしもの際、避難所へ行っても大丈夫なのか？と、ご心配の方々も多いと思います。

遅ればせながら、現在、長野県の危機管理部 危機管理防災課で『避難所運営マニュアル』を見直しています。5月7日時点で素案は出来上がり、関係部署の意見収集を開始しました。5月末に県として制定する予定です。

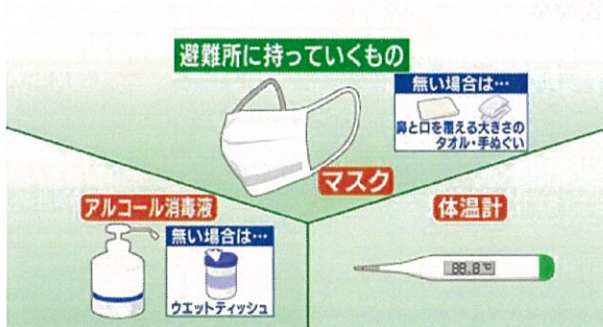
その後、各市町村へ配布し、松本市の『避難所運営マニュアル』を作り上げ、市内各連合町会へ通知する？なんとも悠長な日程で、その間もしも災害が起きたらどうするのか？

そこで、現在言われている感染症の防止に配慮するためのプラス2つの観点をお話します。今まで言われてきている内容には触れません。

【感染防止に配慮した避難、プラス2つの観点】

1. 持ち物：スリッパと使い捨て手袋を追加→床はウイルスの温床

床に、てのひらをついたり、靴下や裸足で歩くと、ウイルスが付着する恐れがあります。消毒用アルコールが不足している際は、スリッパや使い捨て手袋で防げます。



2. 分散避難：自宅で避難・車中待機もアリ

各人が勝手に避難するのは安否確認上、好ましくありません。しかし、各班で安否確認後、安全が確認された自宅待機はアリと言われ始めています。避難所も、体育館だけではなく教室を利用したり、市中のホテルや旅館を活用する方針が提案されるかもしれません。



町会や班が、どこまでフォローするかは、今後制定される避難所運営マニュアルに従って見直す可能性があります。

出典

- ・長野県庁危機管理防災課・疾病対策課
- ・厚生労働省HP
災害時における避難所での感染症対策
- ・長野日報web記事
「3密」防ぐ避難場所確保を 伊那市
- ・松本市 避難所運営マニュアル(案)

ご意見ご質問ご要望などは、口頭、メモなどで、お気軽にお問い合わせください